鏡山遍路考

広瀬　茂
唐津市和多田用尺 7-22

Kagamiyama pilgrim way

There are several Ishibotoke on the promenade of the south side of the Kagamiyama top of Karatsu-city. I noticed in Ishibotoke in December, 2014, and after investigating it, there was the pilgrim way of 88 places of Shikoku on the neighborhood of Kagamiyama top east side and discovered that there ware dozens of Ishibotoke in the outskirts. Because I perform a present situation investigation of Ishibotoke and the hearing investigation to the person concerned from January, 2015 through June and got knowledge about these 88 places of Shikoku in Kagamiyama, I report it.

１．はじめに

唐津市の鏡山頂上の南側の遊歩道に数体の石仏がある。2014 年 12 月偶然その石仏に目が停まり、台座には番号が刻まれていることに気づいた。周辺に四国八十八ヶ所の遍路道があるのではないかと思い、調査したところ鏡山頂上付近東側に遍路道があり、その周辺に数十体の石仏があることを発見した。2015 年１月から６月にかけ、その石仏の現況調査と関係者への聴き取り調査等を行い、この鏡山四国八十八ヶ所（以下鏡山遍路という）について知見を得たので、それを報告する。

２．現況調査の結果と考察

現在、鏡山遍路道は鏡山神社の鳥居の並ぶ参拝道から少し北側に入った所を起点に、標高 230m 付近を時計回りに鏡山山頂南側に位置する愛染院まで続く約２ｋｍの道が残っている。幅１ｍにも満たない道だが、巨岩、巨石の間を縫うようにアップダウンを繰り返して、鏡山東側を半周している。この遍路道沿いに５番から 52 番までの石仏が順番に鎮座している。(図１石仏５番から 52 番までの実線)

石仏はこの遍路道以外にも鏡山ホテルから西展望台に続く遊歩道の脇や、その途中に位置する常照院敷地内にも集合仏として存在する。常照院には 88 体の遍路関係石仏以外の石仏も多数設置されている。また頂上東側にある自然探勝路等にもいくつかの石仏が見られる。

88 体の石仏の存在の有無とその存在場所や状況を表１と図１に示す。石仏 88 体中、存在の確認ができない石仏は 11 体(13%)、石仏が消失し台座のみ残るものが５体(6%)、台座が消失し石仏のみが残るものが２体(2%)ある。残る 70 体(79%)が 2015 年６月現在確認できた石仏である。存在確認できた石仏 70 体中 66 体（94%）が四国八十八か所の本尊と合致しているが、４体は合致していなかった。

遍路道には所在不明の石仏が４体ある（22、33、34、35 番）。32 番は本来 11 面観音菩薩なのだが、薬師如来が鎮座している。33～35 番の所在不明石仏が薬師如来なので、そのうちの一つが鎮座していると思われる。これら所在不明石仏は、その位置からみて、盗難に遭ったと考えるより、高齢になり参拝できなくなった信者が自宅等参拝しやすい場所に移動させたと考えた方がよい。事実、鏡山遍路では石仏の移動は頻繁にみられる現象である。例えば現在、虹の階段に置かれている不動明王はもとは遍路道に設置されていたが、虹の階段ができた時、今の場所に移動した。

４番は 13/16 カーブに台座のみが残っている。自動車道に面したこの場所は交通量が多い場所であり、今でも誰かが供花していることから、ここの石仏は盗難に遭ったものと思われる。また 64 番も台座のみ残っているが、平成 25 年の田中慶太郎氏による調査では仏像もあったということなので、盗難に遭った可能性が高い。

昭和８年から建設された鏡山登山道路の完成や昭和 11 年に県立自然公園となったこと等により鏡山頂上付近の地形が大きく変化し、西側コースにあった石仏の多くが太平洋戦争後に移動しているようである。これら石仏の移動等により石仏と台座の取り違えも発生したと考えられる。

３．資料からわかる鏡山遍路について

唐津四国八十八ヶ所については後藤為義氏が郷土史誌「末蘆國」で詳しく報告をしているが、鏡山遍路についての調査報告は見当たらない。鏡山遍路創設当時の状況が解る唯一の資料は昭和２年西寺町の大聖院佐伯惠海住職が発行した唐津四国札所案内図絵（写真１：以下案内図絵という）である。この資料の札所三十一番の説明は次のように書かれている。

「鏡山文殊堂あり。途中十一面観音に参拝、頂上に達すれば、名高き鏡山の風光目前に展開す。山上には常吉太郎氏の創設鏡山八十八ヶ所あり。鏡山東部一帯に亘り、或は断崖絶壁、或は巨岩怪石の勝地を取り、眺望絶佳の風光と共に理想的八十八ヶ所にして、僅かに半日の暇を以て巡拝するを得る様目論まれたる霊場なり。鏡山八十八ヶ所の巡拝を終れば鏡山稲荷神社あり」

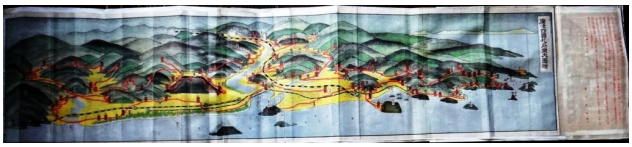

写真１　唐津四国札所案内図絵

この資料により、創設者は常吉太郎氏であり、昭和２年以前に鏡山遍路道は存在していたことがわかる。常吉家は代々、浜崎、玉島、七山、鏡地区の庄屋であり、浜玉町史によると常吉太郎氏（明治５～昭和22）は県会議員三期、浜玉町長四期、浜崎郷郵便局長を務め、鏡山登山道路の建設にも尽力した地元名士である。また鏡山稲荷神社（旧鏡山神社）の名誉社掌にもなっている。

４．鏡山遍路のコースについて

１）昭和２年当時の当初コース

案内図絵の記述より、鏡山遍路は文殊堂をスタートとし、最後に鏡山稲荷神社に出ることがわかる。では、スタートの文殊堂はどこにあったかというと、それは鏡山稲荷神社内にあった。

その理由として、本場四国八十八ヶ所のルートをみてもわかるように遍路コースは一巡している。これは仏教の輪廻転生の思想と関係があり、スタート地点から順路を結ぶと一巡するのである。また、常吉太郎氏は鏡山稲荷神社の名誉社掌にもなっていたことから、スタートの文殊堂は鏡山稲荷神社内にあったと言ってよい。その場所は聞き取り調査の結果、度瓊可久岩（とにかくいわ）から20ｍほど下った神社の水取り場所辺にあったと思われる。現在は、お堂が建っていたと思われる石垣が残っている（写真2）。なお、鏡山稲荷神社があった場所は、現在の鏡山神社の場所ではなく、鏡山池の北側にある度瓊可久岩がある場所である。

写真２　文殊堂跡

表１及び図１に示す現況調査及び聞き取り調査の結果、昭和２年の創立当時のコースは図１に示す標高230ｍ付近を周回するコースだったと推定した。現況から判断して、５番から52番までは当初ルートのまま残存していると考えてよい。

スタート地点を考える意味で鏡山16分の13カーブにある４番（台座のみ）の位置は重要であり、スタートの１番と５番を結ぶコースとして重要な位置関係を示している。鏡山稲荷神社に敬意を払う意味でも、鏡山遍路は神社よりも下側にあったと考えるのは当然であり、その位置は標高230m付近を周回していたようである。

石仏54番、55番,58番、59番は現在位置より南（半田集落側）にあったと思われ、公園工事や林道工事の際に現在の位置に移動したものと思われる。58番、59番の南側の巨石がある斜面には稲葉神社という石造祠があり（写真3）、この辺りに遍路道があったことが推定された。

写真３　稲葉神社

２番、83番、85番、87番、88番は現在、元キャンプ場近くの自然探勝路にあるが、80番代の石仏は当初は西展望台の下側あたりに位置していたと推定される。公園の整備、信者の高齢化等の理由により参拝しやすい現在の場所に移動したものと思われる。

昭和８年に吉田初三郎が描いた唐津鳥瞰図（写真4）をみると、当時山頂付近は平坦だったことがわ

かる。東部一帯のコースは案内図絵の説明にあるように断崖絶壁、巨岩怪石の間を縫うようにコースが設定されており、西側もできるだけ平坦な場所を避けてコース選定されたと考えられる。

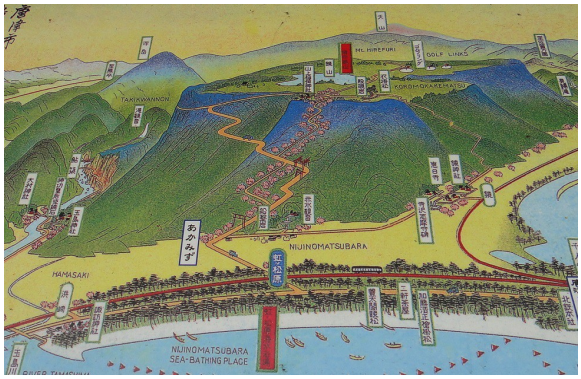

写真４　唐津鳥瞰図（鏡山部分）

また、昭和 22 年米軍が撮影した鏡山頂上を撮した航空写真（写真 5）を見ると推定したコースと同じ位置に道らしきものが見えることから、この道が遍路道だと思われた。

写真５　鏡山の航空写真

２）昭和２６年の鏡山新四国八十八ヶ所大巡りコースについて

昭和 26 年に発行されたパンフレット（写真 6）や今も文珠寺跡に残る開山志納芳名碑（写真 7）により、昭和 26 年 3 月 28 日に智鏡山常照院米倉恵常（高野山真言宗権律師）を代表とした世話人 20 名により鏡山新四国八十八ヶ所大巡りコース（以下鏡山新遍路という）が創設（開創）されたことがわかる。

開山志納芳名碑によれば、この世話人には金子道雄氏を筆頭に唐津観光協会関係者 17 名が名前を連ねている。また、石碑には部落別の仏像奉納数が刻まれており、その数は、半田 20、浜崎 17、相崎 11、鏡 8、横田 8、東宇木 7、東山口 6、宇木 5、唐津市 5、砂子 3、岡口、大江、渕ノ上、西唐津各 2、南、平原、梶原、相賀、腹、中原、鬼塚山田、和多田、福岡市、杵島郡白石各 1 、計 108 体となっている。

先にも述べたように鏡山頂上付近の工事等による地形の変化や信者の高齢化等の事情により、当初の遍路コースの見直しが必要になったものと思われる。

浜崎砂子集落の信者さんたちへの聞き取り調査によると昭和 30～40 年代頃には常照院をスタートとする大巡りが行われていたという。このことから、この新遍路は常照院をスタートし、常照院に戻るルートだったと思われるが詳細なルートは不明である。ただ 5 番から 52 番までのルートは当初コースと同じであったことは疑いがない。

写真６　鏡山新四国八十八ヶ所パンフレット

写真７　開山志納芳名碑

５．巡礼の興隆と信者の高齢化問題

後藤為義氏の調査報告[3)～7)]によると唐津、東松浦地区には明治中頃にはすでに大師講が存在し、大巡りと呼ばれる巡礼が行われていた。また丸田利実氏の調査報告[8)]では、明治期における唐津地区の大師社中は全国屈指であり、その数は一万人とも報告されている。浜崎砂子地区に今もある釈迦堂（唐津四国八十八ヶ所第 3 番札所）は明治 26 年に建造されている。

鏡山遍路は文殊堂という小さなお堂からスタートし、昭和 26 年には常照院が新鏡山遍路を創設した。そして昭和 32 年に中町にあった衣料品店ゆうぜん屋の日高光好氏（後に三嘉と改名）が現在の常照院を建造している。

当初は文珠寺（常吉太郎氏関係の人々）が鏡山遍路巡礼のリーダーシップを摂っていたと思われるが、昭和 30 年代以降は日高氏を中心とする常照院が今日までリーダーシップを摂ってきた。鏡山にはもう一

つ愛染院という真言宗の寺があるが、このお寺はもともと矢作部落にあり、唐津四国八十八ヶ所の三十番札所であったが昭和 42 年に現在地の鏡山頂上に移っている。

昭和 30 年代から 40 年代にかけては鏡山遍路の巡礼者も数十名近くいたそうだが、信者の高齢化に伴い年々巡礼者数も減り、平成の始め頃には巡礼も途絶え、この遍路道は森の中に埋もれたまま現在に至っている。浜崎砂子地区では現在でも毎月 20 日に信者が集合し、大師講を開いているが、60 歳～80 歳代が主体で、後継者とでもいうべき後続の人々はいない状況である。（写真 8）

誠に諸行無常といった感があるが、鏡山遍路は唐津遺産と言ってもよい価値ある歴史、文化遺産であるから何らかの形で後世に伝えていくことが大切である。

写真 8　浜崎砂子集落の大師講

謝辞

最後に私が調査を開始する 2 年前の平成 25 年に現地調査を実施し、石仏第 62 番～64 番を発見した唐津労山会の田中慶太郎氏に感謝の意を申し上げます。この石仏は藪の中に埋もれ、通常では発見できない場所にありました。この石仏の発見により鏡山遍路の当初ルートが明らかになりました。

また、貴重な資料である唐津四国札所案内図絵を提供していただいた西寺町大聖院住職松尾英雅氏に感謝の意を申し上げるとともに、鏡山新四国八十八ヶ所大廻りのパンフレットを提供してくださった山内薬局吉冨寛氏、昭和 22 年米軍が撮影した鏡山の航空写真を見せてくださった佐賀大学名誉教授田中明氏に感謝申し上げます。

2015 年 9 月 6 日
10 月 19 日加筆修正
11 月 6 日加筆修正

参考資料及び文献

1)佐伯惠(西寺町大聖院内奉讃会)　唐津四国札所案内図絵（昭和 2 年発行）
2)米倉惠常(智鏡山常照院住職)　鏡山新四国八十八ヶ所大巡りパンフレット（昭和 26 年発行）
3)後藤為義　巡礼　唐津四国八十八ヶ所（1）　郷土史誌　末廬國　第 101 号
4)後藤為義　巡礼　唐津四国八十八ヶ所（2）　郷土史誌　末廬國　第 102 号
5)後藤為義　巡礼　唐津四国八十八ヶ所（3）　郷土史誌　末廬國　第 108 号
6)後藤為義　巡礼　唐津四国八十八ヶ所（4）　郷土史誌　末廬國　第 109 号
7)後藤為義　巡礼　唐津四国八十八ヶ所（5）　郷土史誌　末廬國　第 110 号
8)丸田利実　高野山に松浦の信仰を灯す
奥の院灯籠堂の石灯籠　郷土史誌　末廬國　第 128 号

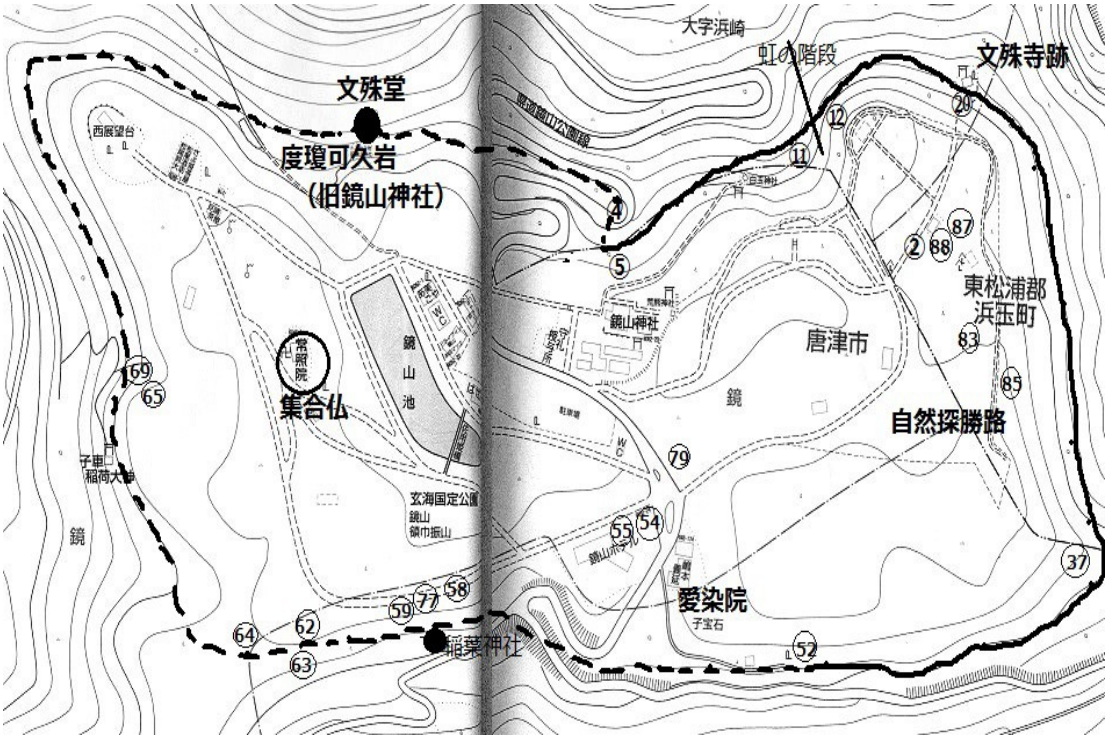

図１　石仏の状況と当初遍路コース

実線：残存する当初コース
　　５番～52番
破線：当初の遍路コース（推定）

表１　石仏の所在の有無、場所と状況

番号	石仏名	場所	備考
1	釈迦如来	常照院	
2	阿弥陀如来	自然探勝路	
3		所在不明	釈迦如来
4	台座のみ	13/16カーブ	大日如来
5	地蔵菩薩	コース内	
6	薬師如来	コース内	
7	阿弥陀如来	コース内	
8	千手観音菩薩	コース内	
9	涅槃釈迦如来	コース内	
10	千手観音菩薩	コース内	
11	薬師如来	コース内	
12	虚空蔵菩薩	コース内	
13	11面観音菩薩	コース内	
14	弥勒菩薩	常照院	
15	薬師如来	コース内	台座は虹の階段に
16	千手観音菩薩	コース内	
17	薬師如来	コース内	
18	薬師如来	コース内	
19	地蔵菩薩	コース内	
20	地蔵菩薩	コース内	
21	虚空蔵菩薩	常照院	
22		所在不明	薬師如来
23	薬師如来	コース内	
24	虚空蔵菩薩	コース内	
25	地蔵菩薩	コース内	
26	薬師如来	常照院	
27	11面観音菩薩	コース内	
28	大日如来	コース内	
29	千手観音菩薩	コース内	
30	阿弥陀如来	コース内	
31	文殊菩薩	常照院	
32	薬師如来	コース内	11面観音が正しい
33		所在不明	薬師如来
34		所在不明	薬師如来
35		所在不明	薬師如来
36	波切不動明王	常照院	
37	阿弥陀如来	コース内	
38	千手観音菩薩	コース内	
39	薬師如来	コース内	
40	薬師如来	コース内	
41	11面観音菩薩	コース内	
42	大日如来	コース内	
43	千手観音菩薩	コース内	
44	11面観音菩薩	コース内	
45	不動明王	常照院	
46	台座のみ	コース内	薬師如来
47	薬師如来	コース内	阿弥陀如来が正しい
48	11面観音菩薩	コース内	
49	釈迦如来	コース内	台座なし
50	薬師如来	コース内	
51	薬師如来	コース内	台座なし
52	11面観音菩薩	コース内	
53	阿弥陀如来	常照院	
54	不動明王	ホテル前	
55	大通智勝如来	ホテル前	
56	地蔵菩薩	常照院	
57		所在不明	阿弥陀如来
58	千手観音菩薩	歩道	
59	薬師如来	歩道	
60		所在不明	大日如来
61	大日如来	常照院	
62	11面観音菩薩	コース外	
63	毘沙門天	コース外	
64	台座のみ	コース外	阿弥陀如来(H25/3月までは存在)
65	11面観音菩薩	コース外	
66	千手観音菩薩	常照院	
67	薬師如来	常照院	
68		所在不明	阿弥陀如来
69	薬師如来	コース外	聖観音菩薩が正しい
70	頭観音菩薩	常照院	
71		所在不明	千手観音
72	大日如来	常照院	
73	釈迦如来	常照院	
74	馬頭観音菩薩？	常照院	薬師如来が正しい
75	薬師如来	常照院	
76	薬師如来	常照院	
77	薬師如来	歩道	
78	阿弥陀如来	常照院	
79	11面観音菩薩	歩道	
80	千手観音菩薩	常照院	
81		所在不明	千手観音
82		所在不明	千手観音
83	聖観音菩薩	自然探勝路	
84	千手観音菩薩	常照院	
85	聖観音菩薩	自然探勝路	
86	11面観音菩薩	常照院	
87	台座のみ	自然探勝路	聖観音菩薩
88	台座のみ	自然探勝路	薬師如来